

されたボリュームに空きがなければ追加の割り振りはできません。その結果スペース不足でジョブは ABEND してしまいます。SMS 管理データセットであっても、セカンダリー・エクステントを割り当てる時点で候補となるボリュームに確実に空きがある保証はありません。

そこで、このような問題に対応するため DFSMS には保証スペース (Guaranteed Space) という機能があります。ストレージ・クラスの Guaranteed Space 属性を Yes にすれば、割り振り候補となる全てのボリュームに 1 次スペース量を事前に割り振ることができます。

```
◆ DDステートメントでボリューム・カウントを指定する。
//OUTDD DD DISP=(,CATLG),DSN=UAP1.LARGEDS1,
// STORCLAS=GUARNTSP,VOL=(,,3),
// SPACE=(CYL,(3000,1000))
```

例 4 - 20 保証スペースを利用したデータセット・スペースの事前割り振り

```
Panel Utilities Scroll Help
-----
                                STORAGE CLASS DISPLAY                Page 2 of 2
Command ==> █

CDS Name . . . . . : ACTIVE
Storage Class Name : GUARNTSP
Guaranteed Space . . . . . : YES
Guaranteed Synchronous Write . . : NO
Cache Set Name . . . . . :
CF Direct Weight . . . . . :
CF Sequential Weight . . . . . :
```

画面 4 - 3 ストレージ・クラスの保証スペース属性の定義

上記のサンプルの場合、作成するデータセットは、割り当てられた記憶グループから SMS によって選択されたボリュームに 1 次スペース量である 3000 シリンダーが割り振られ、最初に作成した時点で 3000 シリンダー×3 ボリュームで 9000 シリンダーのスペース量が確保されます。最初にスペースが割り振られたボリュームが 1 次ボリュームで、残りのボリュームは事前にスペースが割り振られた候補ボリュームとなります。